

| | |
|--------|--|
| 12月3日 | 「林政審議会」の開催及び一般傍聴について |
| 12月10日 | 「気候変動枠組条約 第18回 締約国会議(COP18)」、「京都議定書 第8回 締約国会合(CMP8)」等の結果について |
| 12月19日 | 国有林野の管理経営に関する基本計画の変更について |

動き出した、森と木を活かす「グリーンエコノミー」シンポジウム

～産学官連携で拓く、地球温暖化防止・生物多様性保全に貢献する木づかい～

12月13日、東京ビッグサイト(東京都江東区)において、「動き出した、森と木を活かす『グリーンエコノミー』シンポジウム」が開催されました。

基調講演では、赤池学氏(ユニバーサルデザイン総合研究所所長、森林関係の地球温暖化対策を考える会委員)が、これまで開発に関わった様々なデザインを事例としながら木づかいの可能性や課題などを紹介し、ビジネスモデル、キャッシュフローをデザインしていくことの大切さを訴えていました。

また、概要報告では、米田雅子氏((社)日本プロジェクト産業協議会森林再生事業化委員会委員長、慶応義塾大学特任教授)、井上雅文氏(東京大学アジア生物資源環境研究センター)、吉田尚也氏(IUCN(国際自然保護連合)シニアプロジェクトオフィサー)に続き、末松林野庁林政部長が、「森林資源活用の可能性と林野庁施策の動向」と題し、報告を行いました。末松林政部長は、増加し続けている我が国の森林資源の状況を説明するとともに、その資源を有効に活用するための施策として、公共建築物等での木材利用、木質バイオマス利用などについて説明しました。

続いて、赤池学氏をモデレーターとし、報告を行った4名をパネラーとしてパネルディスカッションが行われ、木材の需要を拡大していくためにはどのような可能性があるか、日本の木の産業でのマーケティング不足を解決するためにはどうするか、木づかいの商品開発におけるデザインの意識も高めていく必要性、木に関する広報を含む啓発活動の大切さなど、様々な提言がされました。



12月26日に発足した第2次安倍内閣における農林水産省の大臣・副大臣・政務官が決まりました。



はやし よしまさ
林 芳正
農林水産大臣



えとう たく
江藤 拓
農林水産副大臣



かじや よしと
加治屋 義人
農林水産副大臣



ながしま ただよし
長島 忠美
農林水産大臣政務官



いなつ ひさし
稲津 久
農林水産大臣政務官

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。